

意欲的に技能を身に付けられる「ベースボール型ゲーム」指導の工夫 —ドリルゲームとステップアップゲームを段階的に取り入れて—

体育・保健体育班 野村 充(小学校教諭)

児童の課題

- ルールが難しく分からない
- 練習してもうまくならない
- バットで打ったり、ボールを投げたりができない

指導者の課題

- 安全面の確保が難しい
- 技能差が大きい
- なかなか技能向上が図れない

「打つ」「走る」「捕る」「投げる」の基本技能を身に付けられていなかったり、ソフトボールのルールをもとにゲームが行われたりしたために、ベースボール型ゲームで身に付けるべき技能を身に付けられていない。

研究のねらい

小学校体育科の「ベースボール型ゲーム」の指導において、意欲的に技能を身に付けられるために、ドリルゲームとステップアップゲームを段階的に取り入れたことの有効性を明らかにする。

ドリルゲーム

「打つ」「走る」「捕る」「投げる」という基本技能を簡略化したゲーム。各授業の前半に位置付け、繰り返し取り組む。児童の基本技能の習得状況に応じて、投げる距離や扱う用具を選択するなど、段階的に難易度を上げながら取り組めるようにしていく。

バッティングゲーム	タイムラン	ターゲットスロウ	スロウ&キャッチ	フライキャッチ	バトンスロウ
トスしたボールを手・ラケット・バットで打つ。ボールの飛距離に応じて得点化をする。センター返しを意識させるために、センター方向を高得点とする。	時間内に回ってきたコーンの距離に応じて得点化をする。ステップアップゲームのベースの配置に応じて、場を設定する。スピードの強弱と体の傾きを意識させる。	フラフープに向けてシャトルを投げる。入ったフラフープの距離に応じて得点化をする。ケンステップで軸足と踏み出す足の位置を確認する。腰の回転を意識させる。	2人組で、一方が投げ、もう一方が捕る。投げる方はケンステップで足の位置を確認する。捕る方は正面に入るようにする。取った位置に応じて得点化をする。	2人組で、一方がボールを投げ上げ、キャッチする。ボールの真下に入れるように意識させる。もう一方が投げ上げからのタイムを計り、得点化をする。	2人組で、一方がタコ糸にバトンを通し、高さを固定する。もう一方が、的に向けバトンを投げる。距離に応じて得点化をする。リリースの位置を意識させる。

ステップアップゲーム

身に付けた基本技能を生かせるようルールを簡易化したゲーム。各授業の後半に位置付け、児童がベースボール型ゲームの特性に触れる機会を保障する。児童の技能の習得過程を考え、コートや用具、ルールなどを段階的に難易度を上げながら取り組めるようにしていく。

<p>アウトゾーンに守備側全員が入ることでアウト</p> <p>△ ③ △ ② △ ① 打 コーンを回ることで得点化</p>	<p>アウトゾーンでアウトマンが捕球することでアウト</p> <p>② ③ ④ 打 ベースを回ることで得点化</p>	<p>アウトゾーンでアウトマンが捕球することでアウト</p> <p>② ③ ④ 打 ベースを回ることで得点化</p>
<p>みんなで、アウトゾーンに入って「アウト！」</p>	<p>守備のいないところをねらって2点を目指そう</p>	<p>みんなで、アウトマンをサポートしよう</p>

研究の成果と課題

- ドリルゲームは、サーキット形式で取り組むことや、場や用具を自分の技能に合わせて選択することで、繰り返し取り組む中でも、意欲を持続しながら、技能を身に付けることができた。
- ステップアップゲームは、レベル1から段階的に難易度を上げることで、基本技能を十分生かしながらゲームに取り組むことができ、意欲的に技能を身に付けることができた。

- ゲームの様相を広げていくためにも、より強く遠くへ打つことができるように、打つ技能を高められるゲームを、さらに考えていきたい。
- 高学年のボール運動領域であるベースボール型に、スムーズに移行していくことができるようにするためにも、ステップアップゲームにおいて、場の広さやボールやバットなどの使用する用具について、本来のソフトボールに近づけていくための工夫をしていきたい。